



東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO

学内広報

for communication across the UT



特集：

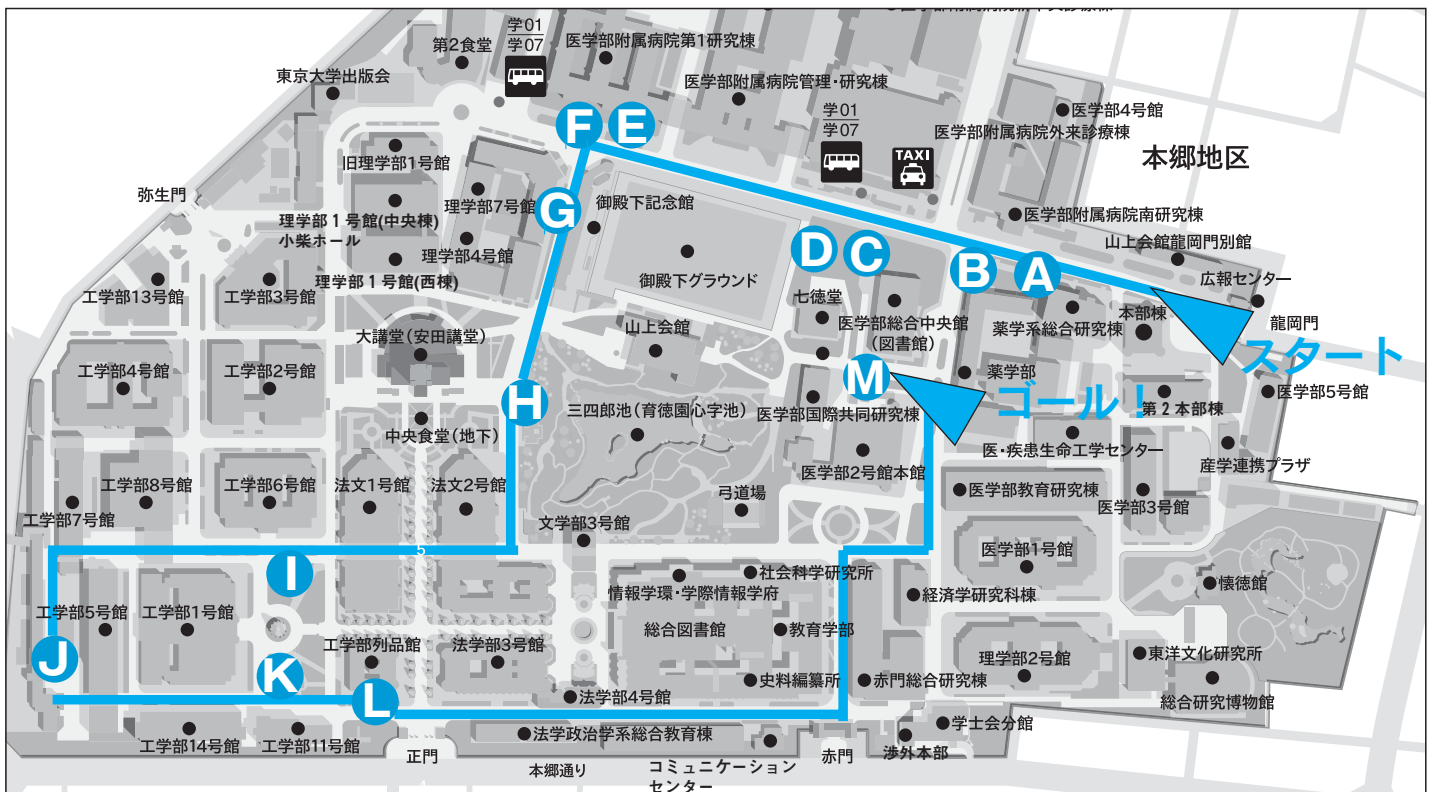
本郷キャンパス

秋の銅像めぐりガイド

2006.10.25

No. 1345

さわやかな秋風と抜けるような青空……散策にはちょうど良い季節となりました。そこで今回は、涼秋のそぞろ歩きにぴったりな「銅像めぐりガイド」をお届けします。さあ、あなたもキャンパス散策に出かけましょう。澄みきった空気を胸いっぱい吸い込めば、ストレスも吹き飛んでしまいますよ。



- | | | |
|----------------|-----------------|---------------|
| A 下山順一郎像 | E 佐藤三吉像 | I チャールズ・ウェスト像 |
| B レオポルド・ミュルレル像 | F 青山胤通像 | J 三好晋六郎像 |
| C エルヴィン・ベルツ像 | G エドワード・ダイヴァース像 | K ジョサイア・コンドル像 |
| D ユリウス・スクリバ像 | H 濱尾新像 | L 古市公威像 |
| | | M 隈川宗雄像 |

秋なのに意外に暑い10月某日、我ら学内広報編集スタッフ2人組は撮影を兼ねて銅像めぐりに出かけました。まずは自転車にまたがって龍岡門そば・本部棟よりスタート。ルートは上記のキャンパスマップの通り。めぐる銅像は上記リストにある全13体。一口に銅像と言っても、胸像あり座像あり立像ありで、大きさもさまざまです。ふだん、何気なく歩いているキャンパスの小径にもさりげなく銅像が立っていたりして、新たな発見がありました。自転車での銅像めぐり所要時間は約1時間ほど。歩いて周るなら2時間もあればほとんどの銅像を堪能できると思います。それでは、次のページから各銅像を紹介しましょう。



緑に囲まれた下山先生像

A 下山順一郎像

龍岡門から附属病院に向かって、構内バス通りの左側歩道を歩いて行くと、この銅像が見えてきます。薬学系総合研究棟のキレイな建物のすぐ先です。

【人物プロフィール】

下山順一郎
(しもやま・じゅんいちろう)
1853年～1912年
医科大学薬学科生薬学教室教授

犬山藩士の子。医学部製薬科の第1回卒業生(1878年)。1883年～87年、ドイツに留学。帰国後は薬学科教授に。



外からは全然見えないのですが……



B レオポルド・ミュルレル像

木々に覆われてほとんど見えませんが、注意深く探すと発見できます。よく見るために、木立の中に入ると、ミュルレル先生の迫力ある御尊顔が出現！

【人物プロフィール】

レオポルド・ミュルレル (Leopold Müller)
1824年～1893年
東校、第一大学区医学校、東京医学校
ドイツ人教師

1871年、明治政府の招聘により、テオドール・ホフマンとともに来日。外科、眼科、婦人科を教授。3年の任期を終えて75年に帰国。



近づくと迫力あるミュルレル先生のお顔！

木々の中に入ると、こういう銅像があります

C エルヴィン・ベルツ像

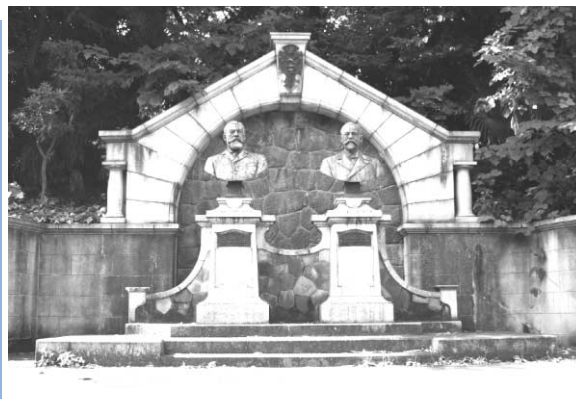
D ユリウス・スクリバ像

御殿下グラウンドの脇にある2つの銅像。立派な台座(というか、舞台?)に設置されており、舞台の階段脇には石のベンチもあるので、ひと休みできます。銅像の前は広場になっているので鑑賞しやすいですよ。隣には水原秋桜子の句碑もあります。

【人物プロフィール】

エルヴィン・ベルツ (Erwin von Baelz)
1849年～1913年
医学部 ドイツ人教師

1876年、来日。東京医学校で生理学と薬物学を教授。77年、東京大学医学部発足とともに内科学を担当。産婦人科学も担当。92年、医科大学名誉教師称号を受ける。1901年、小石川植物園にて在職25年記念祝賀会が催され、1902年まで在職。その後、宮内省侍医に。1905年、帰国。



ユリウス・スクリバ (Julius Karl Scriba)
1848年～1905年
医学部 ドイツ人教師

1881年～1901年の間、外科を教授。眼科・皮膚科も一時的に担当。1901年、退職。その後、聖路加病院外科主任に。1905年、鎌倉にて病没。植物学に造詣が深く、名前を書くときは日本語で「須栗場」と書いていた。

仲良く並んでいるベルツ先生像(写真・左)とスクリバ先生像(写真・右)

ベルツ&スクリバ像はこんな立派な舞台に載っています。向こう側に御殿下グラウンドが見えますね



E 佐藤三吉像
F 青山胤通像

構内バス通りの売店の向かいに2つの銅像があります。びゅんびゅんとクルマが走る通りに面してひっそりとたたずんでいるかじです。

【人物プロフィール】

佐藤三吉（さとう・さんきち）
1857年～1943年
医学部 第二外科教授

大垣藩士の子。1882年、東京大学医学部卒業。83年～87年の間、ドイツへ留学。帰国後、医科大学教授。1901年、東京帝国大学附属医院長。1918年、医科大学長。日本の外科医学界の権威に。

青山胤通（あおやま・たねみち）
1859年～1917年
医学部 第三内科教授

美濃苗木藩士の子。1882年、医学部卒業。ベルツの推挙で、83年～87年の間、ドイツへ留学。帰国翌年に医科大学教授。1901年、医科大学長に。



青山胤通先生像



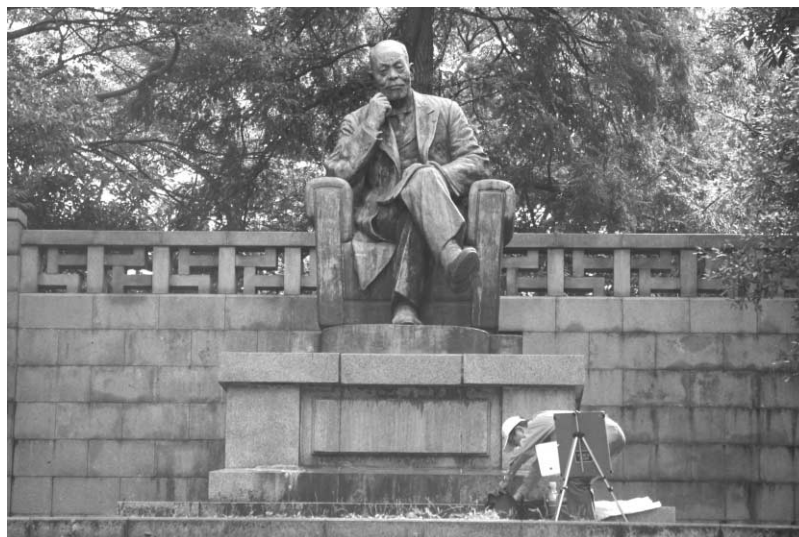
佐藤三吉像



おふたりの像の前はバス通り。クルマが行き交っています



佐藤先生像の台座にはこんなレリーフが



濱尾先生像、とにかく大きいです！

H 濱尾新像

とにかく巨大！ 13体の銅像のうち、元総長の銅像はこれだけなので、ひときわ目を引くように作られたのでしょう。安田講堂と三四郎池の間の道沿いにある濱尾先生像は、安田講堂にしっかりと眺みをきかせております。

【人物プロフィール】

濱尾新（はまお・あらた）
1849年～1925年
帝国大学総長

豊岡藩士の子。1872年、文科省出仕。73年～74年、ヨーロッパへ留学。東京大学創立時より法理文3学部の副総理に。93年、帝国大学総長。97年、文部大臣。1905年、再び東京帝国大学総長に。



解説板は漢文。重厚です

銅像の後ろから撮った珍しいカット。濱尾先生像の視線の先には安田講堂が



G エドワード・ダイヴァース像

理学部化学館の角で、とても分りやすい場所にあります。人物解説板付き。

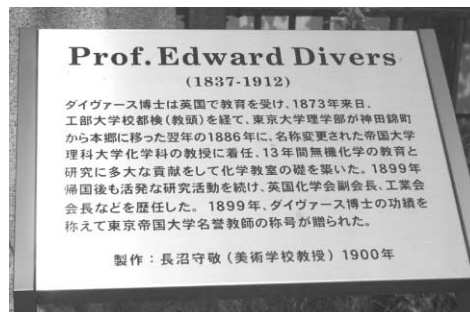
【人物プロフィール】

エドワード・ダイヴァース (Edward Divers)
1837年～1912年
工学寮、工部大学校、理科大学 イギリス人教師

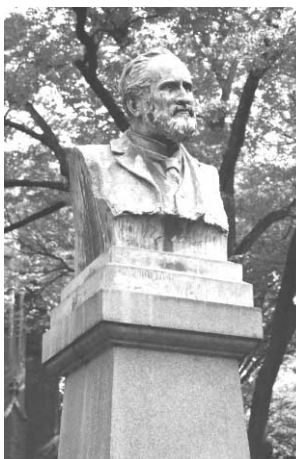
1873年、来日。化学を教授。来日以前から「次亜硝酸塩の発見」等の業績を持つ。85年、イギリス王立協会会員。99年、帰国。東京帝国大学名誉教師称号を贈られ、翌1900年、肖像彫刻が建立される。



ダイヴァース先生像



人物解説板です



風格あるウエスト先生像

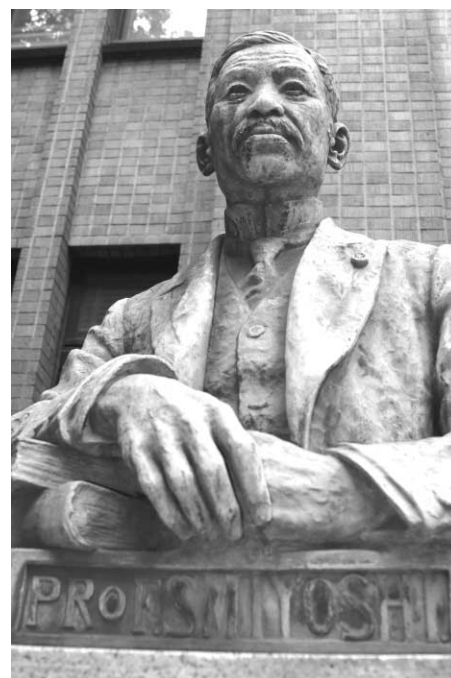
I チャールズ・ウェスト像

工学部の中庭にあるウェスト先生像。風格ある銅像で、つい、先ごろ、本学HPのトップ写真にも登場しました。ライトアップ設備も整えられています。

【人物プロフィール】

チャールズ・ウェスト (Charles D West)
1847年～1908年
工部大学校 土木工学科教授 アイルランド人教師

ダブリン大学トリニティ・カレッジ卒業。イギリス・ベルケンハット製鉄場で造船学を習得。1882年、来日。機械工学と造船学を教授。1908年、日本にて没した。



近づくとかかなり迫力があります

J 三好晋六郎像

工学部5号館の奥にまします三好先生像。駐車スペースの目の前にあります。小ぶりの銅像ですが、近づくとき意外に迫力が……。

【人物プロフィール】

三好晋六郎 (みよし・しんろくろう)
1857年～1910年
工科大学 造船学科教授

1879年に工部大学校機械工学科を卒業し、イギリスに留学。83年に帰国し、造船学科助教授に。86年、教授になる。



駐車スペースの目の前に小ぶりの銅像

K ジョサイア・コンドル像

ウェスト先生像からよく見える位置に本郷キャンパス内で唯一の立像があります。場所は工学部11号館のスターバックスの目の前。手に葉巻を持っている小粋な姿のコンドル先生像です。こちらライトアップ設備が整っています。

【人物プロフィール】

ジョサイア・コンドル (Josiah Conder)
1852年～1920年
工部大学校 造家学科教師

ロンドン生まれ。建築学を学び、1877年に来日。建築教育に従事しつつ、上野博物館、鹿鳴館、東京大学法文科校舎などを設計。86年、工科大学造家学科講師になり、88年、辞任。



ウェスト先生像を真正面に見て、振り向くと、こんな英国紳士が……。



向こう側にスターバックスが見えますね



近づくと、小粋なポーズのコンドル先生像



後ろ姿も素敵です



もっと近づくと……手には葉巻が



すぐそばで猫も銅像鑑賞しておりました



古市先生像はステッキが特徴的



L 古市公威像

工学部11号館の横、正門のちょっと手前にある巨大な座像。立派な台座と石のベンチを備えています。コンドル先生像の小道具は葉巻でしたが、古市先生像の小道具はステッキです。

【人物プロフィール】

古市公威（ふるいち・こうい）

1854年～1934年

工科大学 土木工学科教授

姫路藩士の子。1869年、開成学校入学。75年、文部省留学生としてパリに留学。80年に帰国し、内務省土木局に勤務。86年、帝国大学創立と同時に工科大学土木工学科教授兼工科大学長に。89年、工学博士。98年、退官。

M 隈川宗雄像

七徳堂のななめ前、医学部図書館と医学部2号館本館の間の道沿いにある銅像。小さめなので、つい、見落としがちですが、なかなかスマートで洗練された銅像です。

【人物プロフィール】

隈川宗雄（くまがわ・むねお）

1858年～1918年

医学部 生化学教室教授

1882年、医学部を卒業し、ドイツに留学。91年、医科大学教授。97年に医化学講座が生理学教室より独立した際、医化学講座主任に。



皆さん、よく通る道ですが、意外に銅像の存在に気づいていない方も多いのでは？

いかがでしたか？ 駆け足でご紹介した「本郷キャンパス・銅像めぐりガイド」。今回は、紙幅の都合上、銅像モデルとなった先生方のプロフィールを簡素にまとめましたが、興味を持たれた方は、ぜひ、総合研究博物館の刊行物、「東京大学コレクションⅧ 博士の肖像」をご一読ください。この書籍は以下のWEBデータベースで参照することもできます。

総合研究博物館HP → 総合情報 → 刊行物案内 → （最下段にある）刊行物データベース
→ 「東京大学コレクションⅧ 博士の肖像」 → （目次の）肖像彫刻

URL: http://www.um.u-tokyo.ac.jp/publish_db/1998Portrait/03/03200.html

■参考資料：東京大学コレクションⅧ『博士の肖像 一人はなぜ肖像を残すのか』
編者・木下直之 発行・東京大学総合研究博物館

■問い合わせ先
総務部広報課 内線82032、22031 E-mail: kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

さすてなTimes vol. 4

国際学術誌発刊への道のり

木内真理子
サステナビリティ学
連携研究機構特任専門員

サステナビリティ学という新しい学問の門出に、その研究成果や主張を発信する新しい、しかも英文の国際学術ジャーナルを作ろう、という熱い構想に背中を押され、ジャーナル創刊企画が始まったのが、ちょうど今から1年前のことです。大学ではよく見かける英文ジャーナルですが、創刊を経験した方はぐっと少ないのではないのでしょうか。実は、ジャーナルというものは既存の学会の研究成果を発表する場として発刊されることが多いそうです。でも我々はできたてほやほやの新組織。これから創生しよう！と旗を立てる新学問のジャーナルですから、すべては未来の霧の中。手探りで足を踏み入れたジャーナル創刊への道は、想像以上に厳しいものでした。

まず、企画書の作成です。国際学術誌を扱うメジャーな出版社に「ジャーナルをつくるにはどうしたらよいですか」とド直球の質問を投げ、企画書作成にとりかかりました。新ジャーナルの新規性、マーケット性など、難しいことばかり。とくに、「競合誌」を挙げて特徴を比較するのですが、サステナビリティのような広い領域だと、文系理系によらず関連があるのでどれも「競合」し得るのです。世の中のジャーナル全てと競合？という妄想も頭をよぎりました。

エディター探しも大仕事です。国際ジャーナルなので国籍、専門分野の広がりやバランスという視点で候補者を探したいのですが、皆目見当もつきません。このときは大学アライアンスであるIR3Sのネットワークが威力を発揮しました。各参加大学の先生方がご自分の分野から候補者リストをくださり、その方々に片っ端からあたりました。驚いたことに、ほとんどの方が心よく引き受けてくださいました。そればかりか、そこを拠点にエディターのネットワークが広がったのです。多くの国際的に著名な研究者の温かいご協力に、新ジャーナルへの手応えをずしりと感じました。エディターの数は今や約60名。そのうち7割近くが外国人、専門分野も多岐多様です。



そしてこの準備段階を締めくくったのが表紙。数奇なご縁で（この話はまた別途）巡り会えたグラフィックデザイナーの大御所、杉浦康平氏が、本当に素敵なデザインでIR3Sとジャーナルが目指すものを表現してくださいました。こうして多くの方に支えられて、何とか今月、創刊を迎えられます。IR3Sと社会の架け橋となれるよう、編集部一同、しっかり育てていきたいと考えています。

調達本部です

第17回 2006年10月「中間報告」



昨年の10月、調達本部は科所長会議に調達改善の全体構想を議題として提出し、既にご承知のとおり、12の重点分野で改善策を講じることとしました。早いもので、1年が経過しました。先日、10月10日の科所長会議にこの1年間の活動報告を行いました。

下図の12の重要分野のうち10分野で対策を決め、9つの分野で対策を実施に移すことができました。対策がとれなかったのは、派遣と廃棄物の2分野で、当面コストダウン効果が望めないという結論となりました。調達本部では、これに代わるものとして実験用の機器・消耗品及びコピー機の2分野で新たに検討を進めています。

また、対策は決めたがまだ実施に至っていないのは、試薬です。安全に深く係わる案件として慎重に準備を進め、現在、新たなWeb発注システム作りを行っており、年度内使用開始にこぎ着けたいと考えています。試薬については、昨年からの学内管理システムが稼働していますので、環境安全本部にも検討に加わっていただき、システム連携をとることで試薬を入口で把握する体制も整えたいと思っています。



さて、概ね対策を講じたわけですが、その効果についてはいかがでしょう。8月末の時点では、18年度の目標10億円に対し、約3億円の効果が確定しています。本部が年度初めに一括契約した分野については、年間分の効果が確定していますが、逐次多数の契約が行われるものについては、本部あるいは各部局での契約に従って効果も徐々に積み上がることとなります。

その中で、最も気になるのが文具・事務用品、O.A.パソコンの分野に導入したUT購買サイトの利用状況です。これは、個々の発注が契約そのものですから、効果は各部局の発注者がこのサイトを通じて物品購入するかどうかにかかっています。しかし、これまでのところ利用状況は、ごく低調なものにとどまっています。

この分野は規模が大きく、期待される効果も5億円と全体の約半分です。調達本部ではUT購買サイトの利用拡大を目指して、会計情報コードの登録と検索方法に改善を加えました。下期は、物品調達が累増する時期でもありますので、どうかUT購買サイトの利用により、各部局の調達改善効果が確実に上がるようご協力をお願いしたいと思います。

<新商品のご紹介>

10月18日より、コミュニケーションセンターで、史料編纂所蔵史料『小石川 本郷絵図』の販売を開始いたしました。この絵図は、オフセット印刷で原寸大に複製したもので新鳥の子古染110kgの料紙を使い、その式調と厚さなどを現物に近いものとして商品化されました。絵図のほぼ中央に、現在の東京大学構内にあたる加賀藩上屋敷・水戸藩中屋敷などが見えます。この地図を片手に東京大学周辺を散策したくなるような商品です。サンプルも展示してございますので、ぜひ一度ご覧下さいませ。

■小石川 本郷絵図



●販売価格：1,000円
(税込)
封筒、絵図説明書付

*絵図が封筒に折って入ったものと、折っていないもの(丸めたもの)をご用意しております。

<11月11日(土)ホームカミングデーに向けて>

■安田講堂内に出店予定!!

安田講堂左、講堂内銘板前に出店し、一部の商品を取扱いたします。ぜひこの機会にお立ちより下さい。

■御酒(うさき)おちょこ付き試飲会開催予定!!



●販売価格：200円(税込)
●数量限定：500個
●場所：安田講堂入口左脇(予定)
「御酒」を飲んだことのない方に、ぜひ、お試し頂ければとご用意いたしました。「御酒」のボトルと同じ陶器おちょこが1杯に1個、付いてきます。ちょっとしたお土産にもいかがでしょうか?

■Dr.アミノのサイン会開催予定!!

●開催時間：11:00~12:00

アミノ酸の研究者である大谷勝先生にお越し頂きます。皆さんと先生が直接触れ合える機会ですのでぜひお越し下さいませ。

(基本的にはサイン会とさせていただきます。)

(担当：コミュニケーションセンター 辻)



東京大学コミュニケーションセンター
The University of Tokyo
Communication Center

The University of Tokyo

OPEN：月曜~土曜 10:30~18:30

電話：03-5841-1039

http://www.utcc.pr.u-tokyo.ac.jp

= 特集テーマ & 執筆部署募集告知 =

特集記事を 執筆してみませんか?

学内広報では巻頭の特集記事のテーマとその執筆部署を募集しています。学内への周知を図るためのツールとして特集記事はとても効果的です。皆さんの部署でもぜひ、記事を執筆してみませんか?

1. 制作方法

① テーマの選定

基本的に、全学の教職員を読者対象とするテーマを選定することとしています。まずは一度、総務部広報課に気軽に御相談ください。学内広報特集に馴染まないテーマでない限り、対応いたします。

② 内容・構成の決定

テーマが決まったら執筆部署と学内広報編集スタッフ(以下、編集スタッフ)が打ち合わせをしてページの内容を決めていきます。基本的に見開き2ページをひとつの単位とし、内容が盛りだくさんの場合は4ページ、6ページで構成することもあります。

③ 原稿の執筆

決定した内容構成に合わせて執筆部署に原稿を書いていただきます。字数等は編集スタッフが提示します。原稿はwordファイルでいただきます。

④ ビジュアル要素の提供

特集記事に盛り込む写真・図・イラスト等を執筆部署から提供していただきます。手持ちの写真がない場合は編集スタッフが撮影にうかがうことも可能です。

⑤ デザイン

お書きいただいた文字原稿、提供していただいた写真・図等を素材にして、編集スタッフがページデザインを作ります。もちろん、執筆部署でデザインを作っていただいてもかまいません。

⑥ 校正

デザインしたページイメージをお送りしますので、主に文字校正を行なっていただきます。

⑦ 完成

刷り上がった学内広報は、執筆部署に多めに配布いたします。

2. 締切日

こちらから期日を申しますので、御協力をお願いいたします。通常の学内広報×切日(第1・第3水曜日)の2日前を原稿締切日とします。

3. 問い合わせ先・原稿提出先

総務部広報課 清水・徳久・徳永

TEL：03-3811-3393 内線22031

E-mail：kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

合気道部

合気道部は創部から52年を数える歴史を持ち、部員数も1学年約20人と大変規模の大きい部です。部員は水・金曜日は駒場第一体育館柔道場で、火・木曜日は本郷の七徳堂で午後6時半から練習しています。創部以来合気道部の師範をなさっている田中先生に指導していただいています。

合気道は、相手の隙をついて当身（あてみ）や投げ、関節を極めるなどの攻撃を行い、相手を制する武道です。その動きは繊細で美しく、見る者を魅了します。また相手の力に逆らわず動くため、非力な人でも十分上達することが出来る場所にも合気道の素晴らしさがあります。



相手の動きに動じることなく技をかけるためには、呼吸を落ちつけ、腹を決めて対峙する精神力が必要です。普段の技の稽古のほかに、呼吸の鍛錬や、腹筋ではない、より深みのある「はら」を鍛える四股などを行い、心身の向上を目指しています。



合気道部の特色の一つに、試合がないことが挙げられます。合気道は基本的に相手の攻撃に応じる技が主体であり、部員同士の試合は難しいからであると考えられます。そのため、自分でしっかりと目標を立て、その達成に向け精進しなければならないという厳しさがあります。逆に言えば、この厳

しさを乗り越えようとする中で、自分を客観視して成長しようとするセルフコントロール力が鍛えられます。

10月29日に駒場第一体育館柔道場で合気道講習会が行なわれます。部員が丁寧に指導いたしますので、文章では伝えられない合気道、そして部の雰囲気を見に、是非ふるってご参加ください。
(合気道部 坂本 兼一)

★★DATA★★

創立：昭和29（1954）年
 部員数：61名
 練習場所・時間：
 水・金 18:30～ 駒場地区第一体育館柔道場
 火・木 18:30～ 本郷地区七徳堂
 年間予定：5月 五月祭演武会
 6月 強化合宿
 8月 夏合宿
 9月 秋合宿
 10月 全日本学生合気道演武大会
 1月 冬合宿
 2月 強化合宿
 3月 春合宿
 活動実績：試合がないため特になし
 部長：南谷 崇（先端科学技術研究センター教授）
 師範：田中 茂穂 九段（明治神宮武道場至誠館 名誉館長）
 師範代：稲葉 稔 八段（明治神宮武道至誠館 館長）
 HP：<http://www.todai-aikido.jp/>

剣道部

剣道（たいどう）とは、昭和40年に創始された、玄制流空手の流れを汲む武道で、そのアクロバティックな体の使い方を最大の特徴とします。

体軸を倒す、捻る、回転させる等、体全体を動かして相手の攻撃を躲し、その躲した動きを利用して突きや蹴りを繰り出すという、攻撃と防御が一体となった技を基本としており、このため大変華麗で迫力のある攻防が展開されます。



相手の動きに逆らわず、避けて受け流す剣道のスタイルは力や体格を必要としません。そのためか、競技人口の約半数を女性が占めているのも特徴の一つです。試合では「実戦競技（組手）」「法形競技（型）」に加え、周りの5人の敵を相手にする「展開競技」など剣道独自の競技があります。

剣道部は、2001年度に創立、2005年度に運動会に加入しました。活動を始めて日が浅い、かなり新しい部ですが、全国学生剣道優勝大会（学生大会）総合優勝を目標に、指導者・OBから上級生・下級生まで一丸となって日々稽古に取り組んでいます。

2005年度の学生大会では2つの団体種目で準優勝、2つの個人種目で3位入賞を果たし、大学日本一の夢が現実となりつつあります。



創立してから数年で著しい成長を遂げた我が部ですが、この勢いを止めることなく一層の努力を重ね、真の強豪校へと進化を遂げたいと思います。応援の程よろしくお願いします。
(剣道部 河村 康史)

★★DATA★★

創立：平成13（2001）年
 部員数：52名
 練習場所：各公立中学校・小学校の格技室・体育館にて
 練習日：火・水・木・土
 年間予定：3月 春合宿
 4月 大練習祭
 6月 銀杏杯（学内大会）
 8月 夏合宿
 9月 強化練
 10月 学生大会、全日本剣道優勝大会
 11月 駒場祭
 12月 幹部交代式、納練
 活動実績：2005年度学生大会
 女子団体実戦・新人団体法形 準優勝
 女子個人実戦・法形 3位
 部長：影本 浩（大学院新領域創成科学研究科教授）
 監督：安倍 幸史郎 六段（正統館主任指導員）
 HP：<http://uttc.hp.infoseek.co.jp/index.html>

第7回科学技術交流フォーラム開催報告

参加者約170名で盛況に開催

東京大学産学連携本部主催の第7回科学技術交流フォーラム「価値を共創するサービスモデリング」(企画;UCR「サービスイノベーション」研究会)を、10月13日(金)13時より弥生講堂一条ホールで開催した。概略は以下の通り。



- ◇基調講演:「サービスを科学すること」
・武市正人教授(情報理工学系研究科長:写真上)は、「サービスを科学するという視点は学問として位置づけられるか否かはまだ判らないが、本研究会が今後の土台作りとなることを期待する」と語った。
- ◇講演:サービスモデリングに関する最新の状況を踏まえた講演を頂き、それぞれの立場から意見を述べて頂いた。
・宮田秀明教授(工学系研究科)
「サービス業の全体最適経営システム-実践的な取り組み-」
・上田完次教授(人工物工学研究センター)
「サービスモデリングと共創」
・日高一義様(日本IBM(株))
「サービス・サイエンスの最新動向」
- ◇パネル討論「サービスはサイエンスになれるか?」
以下のパネリストの皆様にご参加頂き、会場との熱のこもった活発な質疑応答や意見交換が行われた。
・司会進行:南谷 崇教授(先端科学技術研究センター)
・パネリスト:新井民夫教授(工学系研究科)、古田一雄教授(工学系研究科)、杉原厚吉教授(情報理工学系研究科)、須藤 修教授(情報学環)、笠原 裕様(日本電気(株))、赤津雅晴様(㈱日立製作所)、丸山文宏様(㈱富士通研究所)(写真下)
- ◇特別講演:「ものづくりとサービス」
・藤本隆宏教授(ものづくり経営研究センター)は、「ものづくり現場に偏在するものは、モノではなく設計である」と強調し、種々の例を挙げて解説。ユーモアあふれる講演に聴講者は自ずと引き込まれ、随所より笑いや歓声があがった。本フォーラムは、近未来の社会・経済にとって「解を出すべき技術課題」について、専門分野・産業界を横串にした「産学出合いの場」として設定したもの。社会の発展のために東京大学と産業界の英知を結集してアウトプットを見据えた議論を行い、最適なパートナーとテーマの探索を行い、産学連携の活動を企画・実行し、課題の解決を図る。



知的財産部からのお知らせ

講演予稿集の発行日もお忘れなく

No.1342号の本欄(「発明届の早期提出のお願い」)では、発明が含まれる研究成果を学会発表で公表する予定がある場合には、できる限り早めに発明届を提出いただくようお願いいたしました。今回は、このような発明届を提出いただく際の記載上の留意点についてご案内します。

学会発表等の予定がある場合には発明届の【発表予定】の欄にその学会名、発表形態、および発表時期を記入いただきますが、その際、当該発表の予稿集発行時期(月日等)についてご存知であれば、(おおよその見込み時期でも結構ですので)必ずその発行日・配布日も忘れずに記入していただくようご留意ください。予稿集に発明の内容が開示されていると、当該発明は「実際の学会発表の時点」ではなく「予稿集の配布の時点」で公知となってしまうため、その時点より前に特許出願を行うようにする必要があります。また、特許法の例外規定(30条適用)を受ける場合でも、「発表後6ヶ月以内」の期限については同様ですので、学会発表の日よりも予稿集の発行日に留意しておく必要があります。なお、学術論文での発表予定についても、投稿中の査読段階ではまだ公知とはなりません。最近に掲載までの日数が短縮化傾向にあるようですので、【発表予定】欄には、投稿中である旨をご記入ください。

得られた研究成果を適切に保護するために、以上の点にご留意いただけるようご協力をお願いいたします。

(連絡先)産学連携本部(研究協力部 産学連携知的財産マネジメントチーム) sangaku2@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

イベントのお知らせ

◇産学連携セミナー「“Web 2.0”から、ベンチャーを考える」

日時:12月4日(月)18:00-20:00

会場:経済学研究科棟地下1階大教室

- 【基調講演】「Web 2.0とは何か」
・フィードパス取締役COO 小川 浩氏
- 【パネルディスカッション】
「日本の大学はGoogleを生み出せるか」
・ユニファイ・リサーチ代表取締役 五内川 拓史(司会)
・フィードパス取締役COO 小川 浩氏
・ドリコム代表取締役社長 内藤裕紀氏
・データセクション代表取締役 橋本大也氏
・シリウステクノロジー代表取締役社長 宮澤 弦氏
・東京大学教授 産学連携本部事業化推進部長 各務茂夫

申込 <http://www.ducr.u-tokyo.ac.jp/ss/seminar/index.html>

◇常時発表者募集・随時開催

【UCRシーズ実用化提案会】【UCRプロジェクト提案会】

連絡先:産学連携本部(研究協力部 産学連携課)

電話:内線22857(外線03-5841-2857)

ホームページ:<http://www.ducr.u-tokyo.ac.jp/>

※「東京大学トップページ」上で「産学連携本部」をクリック



お待たせしました！ 構内地図の案内板が リニューアルされました

龍岡門を入り、道路沿いにある【構内地図】の案内板がリニューアルされました！皆さんご覧になりましたか？

お洒落な案内板が設置されたのは、1997（平成9）年の4月のことでした。それより前は、龍岡門が東大病院への入り口となっていることもあり、広報センターでは病院への道案内が大変多かったです。設置を機にかなり減少したのを覚えています。

しかし、時が経つにつれ、何と‘迷いの地図’と化してきました。直射日光をまともに受けるためか、シール状の地図がめくれ上がってきたのです。まっすぐな道は曲がりくねり、道なき所に道ができてしまった次第です。外来者が案内板を覗き込みながら、しばし立ち往生する姿をよく見かけました。そんな時、私たちは出来る限り声を掛けていました。

そのような思い出深い案内板が、この度、関係者のご尽力により生まれ変わりました。

新しい案内板は部局ごとに色分けがされ、また、反射もなくてとても見やすくなりました！もちろん、地図をご覧の方も数秒で目的の場所を探しているようです。学外からのお客様にとって一番頼りになるのが構内案内板。その活躍を陰ながら応援しましょうか。夕方からのライトアップもひと際輝いていますよ！

ちなみに、広報センターでは構内地図を配布しておりますので、ひとこと申し添えます。

～次回へ続くかもしれない!?～



ワタシのオシゴト 第2回

Rings around the UT

柏地区経理担当課
予算決算係

安藤 洋平さん

「くるか！？時代のニューウェーブ！」

柏地区経理担当課予算決算係の安藤洋平です。

現在、物性研究所及び柏地区事務部の予算管理、決算業務、監査業務、受託及び共同研究の統括、その他財務会計に関する窓口的な業務を担当しています。

東大で働き始めて丸3年、もっぱらデスクワークばかりだったので、体重がかなり成長、おまけに態度も高成長！（`Д´；エツ!なので、これからはもっとアグレッシブに動き回っていかなあかなあ、なんて思っています。ε≡≡へ（`Д´）

「現状打破！変わらなくて成長なし！」をモットーにいろいろ追求していきたいですね。



「採用方針を変えて10年経つと組織が変わる」といいます。なぜなら5～10年後の組織を支えるは今の新卒者だからです。

今の新規採用者は、かなり優秀な人材だとか(((;Д`))アワワ

そんな彼らをきちんと先導できるよう、もっと勉強していかなくては！そして、新しい風、時代を創っていくぞー！

P.S 2月にパパになるじょー^^

出身地：京都府

血液型：B型

自分の性格：

みんなと同じが大嫌い



ニコニコで食いまくっております！

次回執筆者のご指名：並木梨恵さん

関係：小悪魔ちゃんとパパ

一言紹介：キミみたいな横暴でかわいい人種がこの組織には必要なんだ！

INFORMATION

シンポジウム・講演会

シンポジウム・講演会

東京大学21世紀COEプログラム

「機械システム・イノベーション」国際シンポジウム・シリーズ開催のご案内

東京大学21世紀COEプログラム「機械システム・イノベーション」では昨年に引き続き、今年度も本拠点重点領域に関連する以下の国際シンポジウムを開催いたします。エネルギーシステムにおける構造信頼性、革新的飛行ロボット、バイオ医療の分野で精力的に活躍されている方々をお招きし、ご講演頂く予定です。ご関連の皆様方の御参加をお待ちしております。

革新的エネルギーシステムにおける構造信頼性に関する国際会議

International Symposium on Structural Reliability in Energy Systems Innovation

～ 信を極める ～

日程：11月22日（水）

場所：本郷キャンパス弥生地区 弥生講堂・一条ホール
（東京都文京区弥生）

セッション名：

Operation & Maintenance for Structures, Advanced Simulation for Nano-, Micro-, Macro-Structural Reliability, Poster Presentation by Young Researchers, Structural Reliability of Innovative Aerospace Composite Systems

第3回 革新的飛翔物体に関する国際会議

The 3rd International Symposium on Innovative Aerial/Space Flyer Systems

～ 翔を極める ～

日程：11月24（金）、25日（土）

場所：本郷キャンパス浅野地区 武田先端知ビル・武田ホール（東京都文京区弥生）

セッション名：

MAV & UAV, Space Energy, Related Fundamental Research, Poster Presentation by Young Researchers

第3回 革新的バイオ医療に関する国際会議

The 3rd International Symposium on Biomedical Systems Innovation

～ 體を極める ～

日程：11月27（月）、28日（火）

場所：本郷キャンパス浅野地区 武田先端知ビル・武田ホール（東京都文京区弥生）

セッション名：

Cellular Biomechanics, Cell/Tissue Culture Technologies, Computer-integrated Robotics Surgery, Computational Biomechanics, Poster Presentation by Young Researchers, Engineering Synthesis with Medicine

※講演題目等、詳細はHP（<http://www.mechasys.jp/>）をご覧ください。

参加費：無料

問合せ先：東京大学21世紀COEプログラム

機械システムイノベーション事務室

〒113-8656 東京都文京区本郷7-3-1

Tel/Fax: 03-5841-7437

シンポジウム

「微生物力を活用したもののつくりに向けて」

このたび、当センターでは上記テーマのシンポジウムを開催いたします。

主催：生物生産工学研究センター

共催：農学生命科学研究科・農学部

日時：12月11日（月）13:00～18:00

場所：東京大学弥生講堂・一条ホール

東京都文京区弥生1-1-1

（地下鉄南北線「東大前」下車徒歩1分、

地下鉄千代田線「根津」駅下車徒歩7分）

参加費は無料です。参加登録も不要です。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

プログラム

- 13:00 開会の辞
生物生産工学研究センター長
五十嵐泰夫
- 13:05 挨拶 農学生命科学研究科長 會田勝美
座長 農学生命科学研究科 長澤寛道
- 13:10 「放線菌によるポリマー原料（3-アミノ-4-ヒドロキシ安息香酸）の生産」
大西康夫（農学生命科学研究科）
- 13:40 「組換え大腸菌による化合物ライブラリー合成」
三沢典彦（（株）海洋バイオテクノロジー研究所）
座長 農学生命科学研究科 堀之内末治
- 14:10 「芳香族基質プレニル基転移酵素を用いた構造多様性の創造に向けて」
葛山智久（生物生産工学研究センター）
- 14:40 「微生物シトクロムP450を利用した有用物質の探索・開発・製造への取り組み」
有澤 章（メルシャン（株）・生物資源研究所）
- 15:10～15:30 休憩
座長 農学生命科学研究科 依田幸司
- 15:30 「酵母を用いた異種有用タンパク質生産とそれを支える細胞機能」
阪井康能（京都大学大学院農学研究科）

- 16:00 「リジン高生産の理解を目指して
—アスパラギン酸キナーゼの活性調節」
西山 真（生物生産工学研究センター）
座長 生物生産工学研究センター長・農学生命科学研究科 五十嵐泰夫
- 16:30 「Corynebacterium glutamicumのH⁺-ATPase欠損変異株のプロテオーム解析から見えてきた特異な中枢代謝活性化機構」
横田 篤（北海道大学大学院農学研究院）
- 17:00 「アミノ酸菌工学-これまでとこれから」
池田正人（信州大学農学部）
- 17:30 閉会の辞 農学生命科学研究科 阿部啓子

問い合わせ先：

生物生産工学研究センター 葛山智久

Tel：03-5841-3073 Fax: 03-5841-8030

E-mail: utkuz@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp

<http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/biotec-res-ctr/>

お知らせ

お知らせ

総務部

飲酒運転を根絶しましょう！

尊い人命を奪うことになりかねない飲酒運転！「飲酒運転をしない！させない！飲ませない！勧めない！」。こんな当たり前のことを何故人は守れないのでしょうか。昨今の交通事故報道を見ると、飲酒運転をする人は後を絶たないようです。

本学教職員・学生は、率先して飲酒運転の根絶に取り組んでいきましょう。

＜飲酒運転の危険性＞

身体に取り込まれたアルコールは判断力や注意力、運動能力を低下させます。飲酒の影響で、危険と感じない・・・「自分は酒に強い」「自分だけは大丈夫」と甘い考えで飲酒運転を繰り返し、重大事故を起こしています。

＜二日酔いの運転も飲酒運転です＞

アルコールは意外と長く体内に留まり、身体に影響を及ぼしています。翌日でも身体にアルコールが残っている状態での運転は、酒気帯び運転や酒酔い運転となることもあります。

（呼気1リットル中のアルコール濃度0.15mm以上）

<飲酒運転に「つい」や「うっかり」はありません>

飲酒運転は自分の意思、飲酒し運転することに過失はありません。「のんだらのるな」「のるならのむな」を自分自身に徹底させてください。

<飲酒運転を見逃すな>

運転するのを認識しながら飲酒を勧めたり、酒類を提供したり、また飲酒をそそのかして運転させたりする行為は罪に問われます。

(警視庁HPより)

お知らせ

環境安全本部

地域防災貢献活動に備えた訓練(2回目)のお知らせ

本郷消防署長からの依頼に基づき、地域防災貢献活動に備えた訓練(2回目)を実施致します。各スケジュールは下記のとおりです。多数の方々のご参加をお待ちしております。

■日時 1st step 11月29日(水) 12:00~13:30
2nd step 12月4日(月) 9:30~12:30
3rd step 12月8日(金) 12:30~16:00

■場所 1st step 工学部1号館前広場
2nd step 医学部総合中央館333室
3rd step 本郷キャンパス周辺地域等

■訓練内容 1st step 初期消火訓練、小型ポンプ
操作・放水訓練等
2nd step 普通救命講習
3rd step 地域貢献防災教室

■申し込み

1st step 実施場所で直接、お申し込みください
2nd step 11月10日(金) 締め切り
3rd step 12月1日(金) 締め切り

■問い合わせ先 施設部環境安全グループ(内線21051)

E-mail: anei-2@adm.u-tokyo.ac.jp

お知らせ

附属図書館

特別展示(一般公開)

「知の職人たち —南葵文庫に見る江戸のモノづくり—」を開催

今年度の特別展示は、総合図書館所蔵の「南葵(なんき)文庫(ぶんこ)」「紀州徳川家旧蔵書」から、江戸の科学技術史、中でも具体的な「モノづくり」に焦点をあて下記により開催します。さまざまなモノづくりが豊富な図入りの資料で展示されますので見てもお楽しみいただけます。

また、会期中に記念講演会も行います。多数ご参加いただけるよう夕方から行いますのでぜひお越し下さい。

なお、南葵文庫は関東大震災直後、紀州徳川家当主の徳川頼倫氏よりご寄贈いただいたもので、紀州徳川家旧蔵書を始め、広範な時代と分野にわたる資料が含まれており、当館の基幹的資料の一つです。

【特別展示】

日時: 11月1日(水)~11月30日(木)

9:00~19:00 土・日・祝日も開催

(但し、11月16日(木)のみ休館日のため見学不可)

場所: 総合図書館3階ロビー

【記念講演会】

「吉宗と東大 —南葵文庫に見る知の職人たち—」

日時: 11月7日(火) 18:00~20:00

場所: 総合図書館3階大会議室

講師: 佐藤賢一 電気通信大学助教授

*事前申込不要

電子展示も行います。

<http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/tenjikai/tenjikai2006/>

お問合せ先:

附属図書館 情報サービス課 専門員

Tel: 03-5841-2640

E-mail: srv-sen@lib.u-tokyo.ac.jp

平成18年度
東京大学附属図書館特別展示（一般公開）

知の職人たち —南葵文庫に見る江戸のモノづくり—

平成18年11月1日（水）～30日（木）

入場無料

開催時間 9時～19時 土・日・祝日も開催
（11月16日（木）のみ休館日のため除く）
会 場 総合図書館3階ロビー

記念講演会「吉宗と東大—南葵文庫に見る知の職人たち」

入場無料・申込不要

講 師 佐藤賢一 電気通信大学助教授
日 時 平成18年11月7日（火） 18時～20時
会 場 総合図書館3階大会議室

問い合わせ先 <http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/koho/tenjikai/index.html>

東京大学附属図書館情報サービス課
〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1
TEL: 03-5841-2640 FAX: 03-5841-2611
E-mail: srv-sen@lib.u-tokyo.ac.jp

お知らせ

情報基盤センター

“情報探索ガイダンス”実施のお知らせ

情報基盤センター図書館電子化部門では、レポート・論文作成や学習・研究に役立つ“情報探索ガイダンス”各種コースを実施しています。

【日本語コース】

11月は、「留学生向け情報探索ガイダンス」を開催します。基本的なデータベースを使った図書や雑誌論文の探し方を、実習形式で解説します。

入門的な内容ですので、留学生に限らず、初心者の方のご参加も歓迎します。本学にご所属であればどなたでも参加できます。

●会場：

本郷キャンパス 総合図書館1階 講習会コーナー
<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/koshukai/map.index.html>

●日時：

日本語コース 11/17（金）15:00～16:00【予約不要】

詳細は下記のサイトをご覧ください。

<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/training.html>

【中国語、韓国語、英語コース】

前号でお知らせしたとおり、11月は中国語・韓国語・英語で行う「留学生向け情報探索ガイダンス」も開催します。こちらは事前申込みが必要です。

留学生のみなさんのご参加をお待ちしています。

●会場：日本語コースと同じです。

●日時：

中国語コース 11/14（火）15:00～16:00【要予約】

韓国語コース 11/15（水）15:00～16:00【要予約】

英語コース 11/21（火）15:00～16:00【要予約】

●申込方法：以下のサイトからお申し込みください。

（中国語）

<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/c/training-c.html>

（韓国語）

<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/k/training-k.html>

（英語）

<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/e/training-e.html>

●問い合わせ：学術情報リテラシー係（22649）

literacy@lib.u-tokyo.ac.jp

お知らせ

大学院農学生命科学研究科・農学部

第31回公開セミナー 『農学の未来』

大学院農学生命科学研究科・農学部では、以下の要領でセミナーを開催します。無料で、どなたでも参加できます。多くの方のご来場をお待ちしております。

第31回 東京大学農学部公開セミナー
『農学の未来』

司 会：農学国際専攻 黒倉 壽 教授

「立ち上がる農山漁村」

農学国際専攻 林 良博 教授

「動物医療研究が臨床医学の先端を切り拓く」

獣医学専攻 佐々木 伸雄 教授

「木質バイオマス完全利用の可能性」

生物材料科学専攻 鮫島 正浩 教授

パネルディスカッション—農学の未来—

日時：11月18日（土）13:30～16:30
場所：東京大学弥生講堂・一条ホール
東京都文京区弥生1-1-1
地下鉄南北線 「東大前」下車 徒歩1分
地下鉄千代田線 「根津」下車 徒歩7分
対象：一般（どなたでも参加できます）
定員：300名（当日先着順）
参加費：無料
問合せ先：農学系総務課 広報情報処理係
住所：〒113-8657 東京都文京区弥生1-1-1
電話：03-5841-5484, 8179
Mail：koho@ofc.a.u-tokyo.ac.jp

※ 受講証を発行いたします。
ご希望の方は、120円切手をご持参の上、
当日受付でお申込ください。

主催：大学院農学生命科学研究科・農学部
共催：（財）農学会

お知らせ

大学院総合文化研究科・教養学部

109回オルガン演奏会の開催 『ジュネーヴ詩篇歌』を巡って～北ドイツと オランダのオルガン音楽～

教養学部では、恒例のオルガン演奏会を次のとおり開催いたします。このたびはバッハをはじめとする宗教音楽の分野で国際的に活躍なさっている鈴木雅明氏をお迎えし、宗教改革者カルヴァンの『ジュネーヴ詩篇歌』をめぐるオルガン曲の数々をお楽しみいただきます。どうぞご期待ください。

入場は無料です。ホームページを開設しておりますので、ぜひご覧ください。

<http://organ.c.u-tokyo.ac.jp>

日時：11月30日（木）18時30分開演（18時開場）
場所：教養学部900番教室（講堂）
曲目：F・トゥンダー
前奏曲 ト短調
A・v・ノールト
詩篇第24篇
J・P・スウェーリンク
ファンタジア・クロマティカ
詩篇第140篇
G・ベーム
コラール「喜べ、わが魂よ」
D・ブクステフーデ
テ・デウム・ラウダームス
J・S・バッハ

オルガン小曲集より「人よ、汝の罪の大いなるを嘆け」（BWV622）

前奏曲とフーガ ハ短調（BWV546）

演奏：鈴木雅明（オルガン）
（大学院総合文化研究科・教養学部オルガン委員会）

お知らせ

大学院理学系研究科・理学部

第53回小石川植物園市民セミナーのご案内

小石川植物園後援会が主催する第53回小石川植物園市民セミナーが下記の通り開かれます。今回は、本学大学院理学系研究科の東馬哲雄博士による、アオキとハナイカダを題材にした植物分子地理学に関する講演です。最先端の植物科学研究に気軽に触れられる、絶好の機会です。本学関係者に限らず、どなたでも参加できます。どうぞ皆様お誘い合わせの上、是非ご参加下さいますよう、ご案内申し上げます。

講師：東馬哲雄（大学院理学系研究科附属植物園助手）
演題：「DNA多型と染色体多型からみた日本列島広域分布種の多様性：アオキとハナイカダを例に」

日時：12月2日（土）13:00～15:00

場所：大学院理学系研究科附属植物園本園
（小石川植物園）柴田記念館

参加費：無料

参加申込方法：

11月27日（月）までに往復葉書または電子メールにて後援会までお申し込み下さい。返信葉書ないし返信メールが招待状となります。なお参加ご希望多数の際は、お申し込み順に従い受付が締め切られることがあります。悪しからずご了承下さい。

主催・参加申込先：

〒112-0001 文京区白山3-7-1
東京大学大学院理学系研究科附属植物園内
小石川植物園後援会

koishikawa-koenkai@koishikawa.gr.jp

問い合わせ先：

大学院理学系研究科附属植物園
杉山宗隆助教授（03-3814-0368）

EVENT LIST

行事名	日時	場所	連絡先・HP等
18年度第1回「東京大学総長賞」授与式	11月7日(火) 17:00～ 授与式 18:00～ 懇親会	数理科学研究科大講義室 (駒場キャンパス)	学生部学生課学生生活チーム(大八木・宮内) 内線: 22529/22514 E-mail: gakuseiseikatsu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
平成18年度 美術史学研究室主催公開講演会 「版画を像内におさめた平安仏」	11月7日(火) 17:00～	法文2号館1大教室	美術史学研究室 TEL: 03-5841-3800/FAX: 03-5841-8961 http://www.i.u-tokyo.ac.jp/cgi-bin/report.cgi?mode=2&id=67
第36回ビジネスローセンター公開講座「いま、「投資事業組合」を考える。」	11月9日(木) 13:30～	法学部21番教室 (法文1号館1階)	東京大学ビジネスローセンター(BLC) 〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1 TEL: 03-5805-7298 FAX: 03-5805-7143 http://www.j.u-tokyo.ac.jp/%7ebcl/
生産技術研究所千葉実験所公開	11月10日(金) 10:00～	生産技術研究所 千葉実験所 (JR総武線 西千葉駅北口下車)	生産技術研究所 千葉実験所 http://www.iis.u-tokyo.ac.jp/chiba/
GIS講習会	11月10日(金) 10:00～	柏キャンパス 総合研究棟4階470号室	空間情報科学研究センター GIS講習会 担当 古橋 training@csis.u-tokyo.ac.jp http://www.csis.u-tokyo.ac.jp/training/
拡大EUのフロンティア トルコとの対話	11月10日(金) 18:00～	駒場キャンパス 18号館ホール	東京大学ドイツ・ヨーロッパ研究センター事務局 desk@desk.c.u-tokyo.ac.jp http://www.desk.c.u-tokyo.ac.jp/sympo_e027.html
東京大学COE国際シンポジウム Frontiers of the Biology of Uniqueness: Development, Sensory Responses and Reproduction	11月11日(土) 9:30～	理学部2号館 4階講堂	遺伝子実験施設 飯野雄一 http://www.biochem.s.u-tokyo.ac.jp/COE/ TEL 03-5841-3034 FAX 03-5841-3037 E-Mail: symposium@gen.s.u-tokyo.ac.jp
第5回東京大学ホームカミングデイ	11月11日(土) 10:30～	本郷キャンパス 駒場キャンパス	総務部渉外グループ TEL: 03-5841-1217 内線: 21217 FAX: 03-5841-1219 E-mail: hcd@adm.u-tokyo.ac.jp
東京大学法学部連続講演会 「高齢化社会と法」	第6回 11月11日(土) 時間 13:30～ (受付: 13:00～)	法文1号館1階 22番教室	東京大学ビジネスローセンター(BLC) 〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1 TEL: 03-5805-7298 FAX: 03-5805-7143 http://www.j.u-tokyo.ac.jp/%7ebcl/
<正義>のさまざまな顔 — 普遍が特殊か、裁きか赦しか—	11月11日(土) 14:00～	駒場キャンパス 18号館ホール	大学院総合文化研究科「人間の安全保障」プログラム事務局 TEL & FAX: 03-5454-4930 http://human-security.c.u-tokyo.ac.jp/symposium/sympo20061111.htm
東京大学インド・フォーラム	11月14日(火) 13:00～	理学部1号館(中央棟) 小柴ホール	東京大学21世紀COEものづくり経営研究センター 〒113-0033 東京都文京区本郷3-34-3 本郷第一ビル8階 TEL: 03-5842-5501 FAX: 03-5842-5536 E-mail: india@mrrc.e.u-tokyo.ac.jp
平成18年度第5回定例研究会 「歴史」をつくる人びと—異質性社会のレジティマシ—	11月16日(木) 14:00～	工学部8号館7階会議室	東洋文化研究所 http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/cgi-bin/schedve.pl?ThuOct509:36:12006
社会科学研究所国際ワークショップ 「世界における社会科学的日本研究の現状と展望」	11月17日(金) 18日(土)	社会科学研究所大会議室/ 理学部1号館小柴ホール	社会科学研究所 Tel 03-5841-4904 / Fax 03-5841-4905 E-mail fujiyama@iss.u-tokyo.ac.jp http://jww.iss.u-tokyo.ac.jp/
大学院数理科学研究科公開講座「対称性と群」	11月18日(土) 13:30～	数理科学研究科 大講義室	http://faculty.ms.u-tokyo.ac.jp/users/kokaikoz/kokaikoz2006.html E-mail: t-saito@ms.u-tokyo.ac.jp
第31回 東京大学農学部公開セミナー「農学の未来」 ※16ページ参照	11月18日(土) 13:30～	農学部弥生講堂一条ホール	農学系総務課 広報情報処理係 〒113-8657 東京都文京区弥生1-1-1 電話: 03-5841-5484、8179 E-mail: koho@ofc.a.u-tokyo.ac.jp
行事名	開催期間	場所	連絡先・HP等
第6回mAAN 国際会議2006 [東京] 「Our modern/われらがモダン: アジア都市遺産を再認識する」	11月1日(水) ～5日(日)	安田講堂、生産技術研究所コンベンションホール他	mAAN国際会議2006 [東京] 日本実行委員会事務局 〒153-8505 東京都目黒区駒場4-6-1 生産技術研究所村松研究室気付 TEL: 03-5452-6443 FAX: 03-5452-6445 http://www.iis.u-tokyo.ac.jp/announce/061016/web_news.htm
2006年度冬学期「高校生のための金曜特別講座」	10月6日(金) ～1月12日(金)	教養学部 11号館2階1106教室	http://high-school.c.u-tokyo.ac.jp/
第34回生研公開講座イブニングセミナー 「環境のための物質・材料工学最前線」	10月6日(金) ～12月22日(金) (11月3日、24日を 除く各金曜日 全 10回午後6時から)	生産技術研究所 (駒場リサーチキャンパス)	生産技術研究所 総務・広報チーム TEL: 03 (5452) 6863、6866 FAX: 03 (5452) 6071 http://www.iis.u-tokyo.ac.jp/announce/
特別展「一高校長 森巻吉とその時代—向陵の興廃この一遷にあり」	10月7日(土) ～12月3日(日) 10:00～18:00(入 館は17:30まで) 毎週火曜日休館	総合文化研究科・教養学部 駒場博物館 1階美術博物館展 示室	TEL: 03-5454-6139 FAX: 03-5454-4929 http://tdgl.c.u-tokyo.ac.jp/bihaku/
特別展示(一般公開) 「知の職人たち —南葵文庫に見る江戸のモノづくり—」 ※15ページ参照	11月1日(水) ～11月30日(木)	総合図書館3階ロビー	附属図書館 情報サービス課 専門員 Tel: 03-5841-2640 E-mail: srv-sen@lib.u-tokyo.ac.jp
特別展示『東京大学コレクション —写真家上田義彦のマニエリスム博物誌』展	11月3日(金・祝) ～平成19年1月28日 (日) (休館日もあります のでご確認下さい)	総合研究博物館	ハローダイヤル 03-5777-8600 URL: http://www.um.u-tokyo.ac.jp
APRU Distance Learning and the Internet 2006 Conference テーマ: Technology Enabled Global Knowledge Structuring	11月8日(水) ～10日(金)	農学部弥生講堂 一条ホール	http://apru2006.dir.u-tokyo.ac.jp/
情報基盤センター 「留学生向け情報探索ガイダンス」 ※16ページ参照	11月14日(火)15:00～ 11月15日(水)15:00～ 11月17日(金)15:00～ 11月21日(火)15:00～	本郷キャンパス 総合図書館1階 講習会コーナ ー	学術情報リテラシー係(22649) literacy@lib.u-tokyo.ac.jp http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/training.html

Contents

特集

- 02 本郷キャンパス 秋の銅像めぐりガイド

コラム

- 08 さすてなTimes Vol.4
- 08 調達本部です 第17回
- 09 コミュニケーションセンターだより No.24
- 10 Flags運動部紹介 No.23
- 11 Crossroad～産学連携本部だより～Vol.5
- 12 龍岡門横丁噺 第6回
- 12 Relay Column「ワタシのオシゴト」 第2回

INFORMATION

シンポジウム

- 13 東京大学21世紀COEプログラム
「機械システム・イノベーション」国際シンポジウム・シリーズ開催のご案内
- 14 生物生産工学研究センター
シンポジウム
「微生物力を活用したもののつくりに向けて」

◆ 表紙写真 ◆

エドワード・ダイヴァース像
(2ページに関連記事)

お知らせ

- 14 総務部
飲酒運転を根絶しましょう！
- 15 環境安全本部
地域防災貢献活動に備えた訓練（2回目）のお知らせ
- 15 附属図書館
特別展示（一般公開）「知の職人たち — 南葵文庫に見る江戸のモノづくり —」を開催
- 16 情報基盤センター
“情報探索ガイダンス”実施のお知らせ
- 16 大学院農学生命科学研究科・農学部
第31回公開セミナー 『農学の未来』
- 17 大学院総合文化研究科・教養学部
109回オルガン演奏会の開催《『ジュネーヴ詩篇歌』を巡って～北ドイツとオランダのオルガン音楽～》
- 17 大学院理学系研究科・理学部
第53回小石川植物園市民セミナーのご案内

18 EVENT LIST

淡青評論

- 20 歴史的な東大の科学や医学や人文・社会科学の貢献をどのように伝えるか—日本語と英語による解説の併記の重要性—

編集後記

今回の特集は「秋の銅像めぐりガイド」。他の号とは毛色の違う、お楽しみ特集となっています。ふだん、私たちが何気なく歩いている本郷キャンパスは、実は100年以上の歴史を誇る「歴史的文化財の集積地」。今回御紹介した銅像のみならず史跡や石碑などさまざまな見どころが点在しています。今後はそれらも特集していく予定ですので、どうぞ、ご期待ください。
(し)



七徳堂鬼瓦

歴史的な東大の科学や医学や人文・社会科学の貢献をどのように伝えるか
-日本語と英語による解説の併記の重要性-

医学科の最終学年の学生が6人1グループで実習に来るたびに、創立以来150年の間の東大医学部の出身者が残した独創的な研究は何かと毎回訊ねることにしている。90%の学生は「思いつかない」という。稀に北里柴三郎の破傷風菌の発見、山極勝三郎のウサギの耳のコールタール癌と言う者がいる程度である。現役の教授の研究のことを言う学生もいる。実は、医学部だけでも関節鏡や胃カメラの開発、心臓の刺激伝導線維や筋肉の収縮

のカルシウムイオンの関与やアレルギーのIgEの発見などノーベル賞に匹敵する業績は少なくない。生きていればノーベル文学賞を受賞したであろう安部公房も医学部の卒業生である。なぜ学生は知らないのか。講義や実習で教えないからである。最近NatureやScienceに研究論文が掲載されたことは言うが、何を発見あるいは解明したかという説明は少ない。ケンブリッジ大学に行くと、「万有引力を発見したNewton (1643-1727)を我が大学は生んだ」、パリの大学院大学コレギウム・フランセに行くと、「マリー・キュリーとピエール・キュリーがラジウムを発見した」と壁のプレートに書かれており、訪れた者の知的好奇心を刺激する。その頃、どのようにして発見したのか思い巡らすからである。東大でも世界に影響を与えた発見や発明は学内外に解説を各学部やあるいは教室が工夫してプレートにしてはどうか。同時に絵葉書にするのも良いと思う。各学部の発見や発明を絵葉書にして、絵や写真で歴史的業績を紹介できるようにする。いずれにしろ日本語と英語の解説を併記する方がいい。東大では日本語と英語が併記して紹介されているのは本郷通りに面した赤門と三四郎池の由来ぐらいなもので、このような歴史的な情報の発信においては世界一流とはいえない。「生研ニュース」の第100号(H18年6月発行)に、英国から来ている若い研究者が東大の中の英語によるコミュニケーション能力の低さに驚いた文章を寄せている。話す英語にも問題はあるが、学会でも日本人だけでグループになって英語で話そうとする努力に欠けるという批判である。耳は痛い但有難い指摘である。小生の専門領域の国際学会でもよく見る光景である。最近では韓国の先生方がよく発表し、質問もし、レセプションでも積極的に英語でコミュニケーションするので余計日本人の参加の影が薄く見えたりする。

日本語と英語の併記が学内のいたるところにあるようになれば、ビジターとの英語によるコミュニケーションの良いきっかけとなるに違いない。このようにすれば世界への発信は身近なところから始めることが出来る。

加我 君孝 (大学院医学系研究科)

(淡青評論は、学内の教職員の方々をお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。)

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、総務部広報課を通じて行ってください。

No. 1345 2006年10月25日
東京大学広報委員会

〒113-8654
東京都文京区本郷7丁目3番1号
東京大学総務部広報課
TEL : 03-3811-3393
e-mail : kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
http://www.u-tokyo.ac.jp